

2020(令和2)年度

板橋区環境白書

2021(令和3)年3月



「エコポリス板橋」環境都市宣言

豊かな自然 澄んだ空気 静かでやすらぎのある暮らしは 私たちすべての区民の願いです

板橋区には みどりと水の豊かな自然やいきいきとしたまちなみなど 誇れる環境が残されています

しかし 近年の盛んな都市生活は かつての良好な環境を徐々に失わせ さらに地球環境をも悪化させています

環境にやさしい暮らし方や事業活動を進めながら かけがえのない地球環境を子孫に引き継いでいくことが 私たちに課せられた責務です

私たち板橋区民は 真に快適な環境を創造するために 人と環境が共生する都市「エコポリス板橋」の実現を目指していくことをここに宣言します

- 1 私たちは 毎日の生活が地球環境に影響を及ぼしていることを認識し 地球市民として行動します
- 2 私たちは リサイクルの推進やエネルギーの節約に努め 地球の資源を大切にします
- 3 私たちは みどりや水 空気を大切にし 様々な生物が共に生きていける環境づくりに努めます

平成五年四月一日

はじめに

環境問題は人類のあらゆる社会活動から生じるものであり、環境・経済・社会の諸課題は密接に関係していると言われていています。これまでの経済発展・技術開発により、私たちには豊かで便利な生活をもたらされましたが、一方で大気・水質などの環境汚染、環境破壊などにより地球環境は悪化しました。

さらに、近年では地球温暖化の影響によるものと考えられる気候災害の激甚化、海洋プラスチックごみ問題や生物多様性の損失など、環境問題はますます多岐にわたり、かつ深刻化してきています。

2015年に国連総会で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中では、持続可能な開発目標（SDGs）が掲げられました。SDGsは、環境保全、経済活動の発展、社会の向上を統合的に実現するための国際目標です。

SDGs達成のためには、これまでの大量生産・大量消費・大量廃棄の社会システムを見直し、環境、経済、社会を統合的に向上する社会へと変革していく必要があります。

さらに、私たち一人ひとりが「自分事」として捉えて課題解決に向けて取り組むことが重要であり、これまで以上に、区民・事業者の皆様と区が、連携・協働して環境への取り組みを進めていくことが大切です。

これまでも区民・団体・事業者の皆様のご協力により、環境美化活動や環境保全活動など様々な活動が行われ、区内の環境改善に大きな成果をあげてきました。この環境白書は、板橋区の環境の現状と環境保全に関する施策の成果を報告する環境報告書です。併せて、区民の皆様とのパートナーシップの形成や区民一人ひとりの環境行動が推進されるような情報提供を目的にしています。

今後、さらにより良い環境白書にするため、ご意見・ご要望等があれば、ぜひお寄せいただきますようお願いいたします。

最後に区民の皆様には、板橋区の環境への取り組みに対しまして、一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2021（令和3）年3月

板橋区資源環境部

目 次

第1部 環境基本計画の推進

- 1 「板橋区環境基本計画 2025」について 1
- 2 計画の推進と進行管理 3
- 3 板橋区の環境とSDGs 10

第2部 環境保全の取り組み

基本目標1 脱炭素社会の実現

- 1 板橋区の現状 12
- 2 環境施策の活動状況
 - (1) 区民・事業者における省エネ・再エネの推進 14
 - 緑のカーテンの普及 14
 - クールビズ・ウォームビズ 15
 - 新エネルギー・省エネルギー機器の普及 15
 - 板橋区環境マネジメントシステム 16
 - 企業の環境マネジメントシステム構築・維持支援 19
 - 環境ビジネスの振興 20
 - (2) 建物や交通などインフラの脱炭素化の推進 22
 - エネルギーと環境に配慮した公共施設の整備 22
 - 板橋区建築物等における省エネルギー・環境配慮に関する指針 22
 - LED街灯 23
 - 板橋区の自動車公害対策 23
 - 自転車通行空間整備事業 24
- 3 関連計画・事業
 - 板橋区地球温暖化対策実行計画 25
 - 他自治体・海外とのパートナーシップ（イクレイ） 25
 - 区におけるスマートシティへの取り組み 26

基本目標2 循環型社会の実現

- 1 板橋区の現状 28
- 2 環境施策の活動状況
 - (1) 板橋かたつむり運動の推進 29
 - 板橋かたつむり運動 29
 - 区民・事業者とのパートナーシップ 30
 - 発生抑制 30
 - 板橋区立リサイクルプラザ 31
 - (2) 適正で効率的なごみ収集・処理体制の構築・運用 32
 - 清掃リサイクル事業の運営 32
 - ごみ出しルールの徹底 32
 - ごみ収集 33
 - 資源回収 35
 - ごみの処理 36
 - 区民・事業者主体のリサイクル 37
- 3 関連計画
 - 一般廃棄物処理基本計画 38

基本目標3 自然環境と生物多様性の保全

- 1 板橋区の現状 40
- 2 環境施策の活動状況
 - (1) 板橋区らしい良好な緑や水環境の保全・創出 42

民有地の緑の保全	42
緑化指導による緑化	43
自然との共生	44
水環境の保全と活用	45
公園	47
水質汚濁・湧水保全	48
(2) 自然とのふれあい促進や自然の恵みの享受	50
緑を楽しむライフスタイル	50
農地の保全	50
熱帯環境植物館	51
自然・いきものさがし	52
エコポリスセンターかんきょう観察員	52
基本目標4 快適で健康に暮らせる生活環境の実現	
1 板橋区の現状	53
2 環境施策の活動状況	
(1) 大気汚染や騒音などのない生活環境の保全	54
大気環境の保全	54
アスベスト対策	58
放射線対策	58
騒音・振動対策	59
悪臭対策	63
土壌汚染対策	64
PCB 対策	64
有害化学物質対策	65
公害の未然防止	66
公害相談・苦情	69
環境調査に関する情報の発信	72
(2) 潤いのある景観や美しい街並みの保全	73
良好な都市景観	73
環境美化活動	74
基本目標5 「環境力」の高い人材の育成	
1 板橋区の現状	76
2 環境施策の活動状況	
(1) 環境教育の推進、環境保全活動を担う人材の育成	78
エコポリスセンター	78
学校における環境教育	79
(2) わかりやすい環境情報の発信	82
環境情報の発信	82
環境イベント	83
3 関連計画	
板橋区環境教育推進プラン 2025	83
基本目標6 パートナーシップが支えるまちの実現	
1 板橋区の現状	85
2 環境施策の活動状況	
(1) 環境保全活動への参加や協働を進める仕組みづくり	87
エコポリス板橋クリーン条例	87
エコポリス板橋環境行動会議	87
エコポリス板橋環境活動大賞	88
区民団体における取り組み	89

参考資料

- 1 板橋区の概況・年表 90
- 2 用語解説 95
- 3 板橋区環境基本計画の変遷 99
- テレフォンガイド 100
- ご意見・ご要望をお寄せください（板橋区環境白書アンケート） 101

《板橋区環境白書の役割》

板橋区では、環境基本計画（第一次）が策定された 1999（平成 11）年度より、板橋区の環境全般についてまとめた「板橋区環境白書」を発行しています。環境白書では、環境基本計画に基づいて取り組まれた環境施策の進捗状況や区の環境の現状などを、計画の構成に沿って公表しています。

●本書第2部以降の構成●

第2部 環境保全の取り組み 基本目標1 脱炭素社会の実現

第2部 環境保全の取り組み

基本目標1 脱炭素社会の実現

1 板橋区の現状

■ 区内エネルギー消費量

指標名	基準年度 平成24年度	めざす 方向性	目標値 令和7年度	実績値 平成29年度	(参考) 達成率	進捗率	進捗度
区内エネルギー消費量 (熱量換算)	24,307 TJ※1	↓	22,901 TJ※2	21,862 TJ※3	173.9% A A	100% 以上	順調

区内エネルギー消費量は、電気やガスの使用、自動車の燃料であるガソリンによるものが大部分を占めていますが、東日本大震災以降、省エネ・節電対策や再生可能エネルギー（※P95）の普及が進んだことにより、基準年値と比較し順調に減少傾向で推移しているといえます。平成29年度の値が前年度と比較して増加しているのは、ガスの消費量の増加が要因として考えられます。

図2-1-1 区内エネルギー消費量の推移

第2部では、環境基本計画の基本目標ごとに、「1 板橋区の現状」と「2 環境施策の活動状況」を紹介します。

「1 板橋区の現状」では、各基本目標の環境指標について紹介します。

第2部 環境保全の取り組み 基本目標1 脱炭素社会の実現

2 環境施策の活動状況

(1) 区民・事業者における省エネ・再エネの推進

■ 緑のカーテンの普及

緑のカーテン（※P97）は、窓の外に植物を寄せた自然のカーテンで、夏場の強い日差しを和らげ、冷房の使用を抑えることが...

就学児及び小学生を対象とした「キッズ絵日記部門」を新設しました。当年度は、個人部門10作品、団体部門3作品、公共施設部門...

「2 環境施策の活動状況」では、各環境施策の取り組み概要を基本計画に沿って紹介します。

各環境施策の活動指標に関連するSDGs アイコンを掲載しています。

（※POO）は、巻末の用語解説に掲載しています。
（関連 POO）は、本書内で関連するページとなります。

緑のカーテン（板橋区役所本庁舎）

■ 緑のカーテン（板橋区役所本庁舎）

関連する活動指標

指標名	基準年度 平成26年度	めざす 方向性	実績値 平成30年度	実績値 令和元年度	進捗度
区公共施設における緑のカーテン実施施設数	180 施設	↓	161 施設	167 施設	後退

今後の対策：公共施設は数が限られているため、今後も大きな増減はありませんが、引き続き、施設側のニーズを把握し適切に育成支援（資材提供）していきます。

関連するホームページ（緑のカーテン） <https://www.city.itabashi.tokyo.jp/bousai/kankyo/curtain/index.html>

各環境施策に関連のある活動指標を、P7～P8 に掲載されている一覧表から抜粋して掲載しています。

各環境施策に関連のあるホームページアドレスを掲載しリンクを貼っています。詳細や最新情報はリンク先ホームページでご確認ください。

第1部 環境基本計画の推進

1 「板橋区環境基本計画」2025について

2009（平成21）3月に策定した板橋区環境基本計画（第二次計画）以降、東日本大震災に伴うエネルギー需給のひっ迫による省エネルギーへの取り組みや再生可能エネルギー導入の加速化、人口減少社会への移行など、環境行政を取り巻く状況が変化してきました。また、水素エネルギーの活用など新技術の発展、国際社会における新しい温暖化対策の枠組みへの合意など、今後も環境を取り巻く状況は変化していくものと想定されています。

そこで、第二次計画の期間満了（2015（平成27）年度）にあたり、このような状

況変化への対応を図り、板橋区における環境保全の取り組みをより効果的に進めていくため、2016（平成28）～2025（令和7）年度を計画期間とする新たな環境基本計画として、「板橋区環境基本計画2025」を2016（平成28）年3月に策定しました。

本計画は、“環境像”＝概ね10年後のめざすべき環境の姿（図1-1-1）を設定するとともに、環境像のもと、個別分野ごとの環境課題に対応した6つの基本目標を設定しています（図1-1-2）。

人と緑を未来へつなぐスマートシティ“エコポリス板橋”

区の環境の将来像＝10年後の姿

武蔵野の面影を残す徳丸・赤塚の樹林地、広大な河川敷を有する荒川や美しい桜並木に彩られる石神井川など、緑と水やきれいな空気に囲まれ、生物の多様性が保全されるなど、自然環境との共生が進んでいます。

またスマートシティに向けてICT（情報通信技術）（※P98）など最先端の技術が整備され、エネルギーを効率的に生みだし使用するライフスタイルが定着するとともに、水素や再生可能エネルギーなどの有効な資源の活用が進み、環境や防災面で持続可能な脱炭素社会*を実現するまちづくりが進んでいます。

さらには、区民一人ひとりや事業所のごみ減量・リサイクルなど環境に対する意識が高く、世代や職業、地域の枠を越えて、地域全体が連携して活動が進み、資源循環型社会が実現しています。

「人」

身近な環境を守り、育て、よりよい環境をつくっていくためには、人（個人、事業者、地域など）の意識を環境にシフトし、実際に行動に移していきながら、様々な人が協働して進めていくことがとても大切です。

「緑」

身近に緑や水などの豊かな自然があるまちづくりを進め、安心安全でやすらぎのある環境をつくっていくことが大切です。

「未来」

板橋の宝である子どもたちや豊かな暮らし、そして緑や水などの豊かな自然環境など、持続可能な発展を象徴しています。未来を担う子どもたちが環境と共存・調和しながら将来にわたり持続的に快適な都市環境を実現することが大切です。

「スマートシティ」

あらゆる社会インフラにICTなどの先端技術を活用してスマート化し、安心安全、便利で無駄のない暮らしや経済活動の実現をめざすかしこいまちづくりを進めていくことが大切です。

「エコポリス板橋」

1993（平成5）年4月、環境都市宣言を行い、人と環境が共生する都市“エコポリス板橋”の実現をめざすまちづくりを進めています。

図1-1-1 「板橋区環境基本計画2025」が掲げる環境像

※ 「板橋区基本計画2025」のアクションプログラムである「いたばしNo1実現プラン2025」の策定により、施策名における「低炭素社会」は「脱炭素社会」へと変更されたことに伴い、「低炭素社会」は「脱炭素社会」と読み替えることとします。

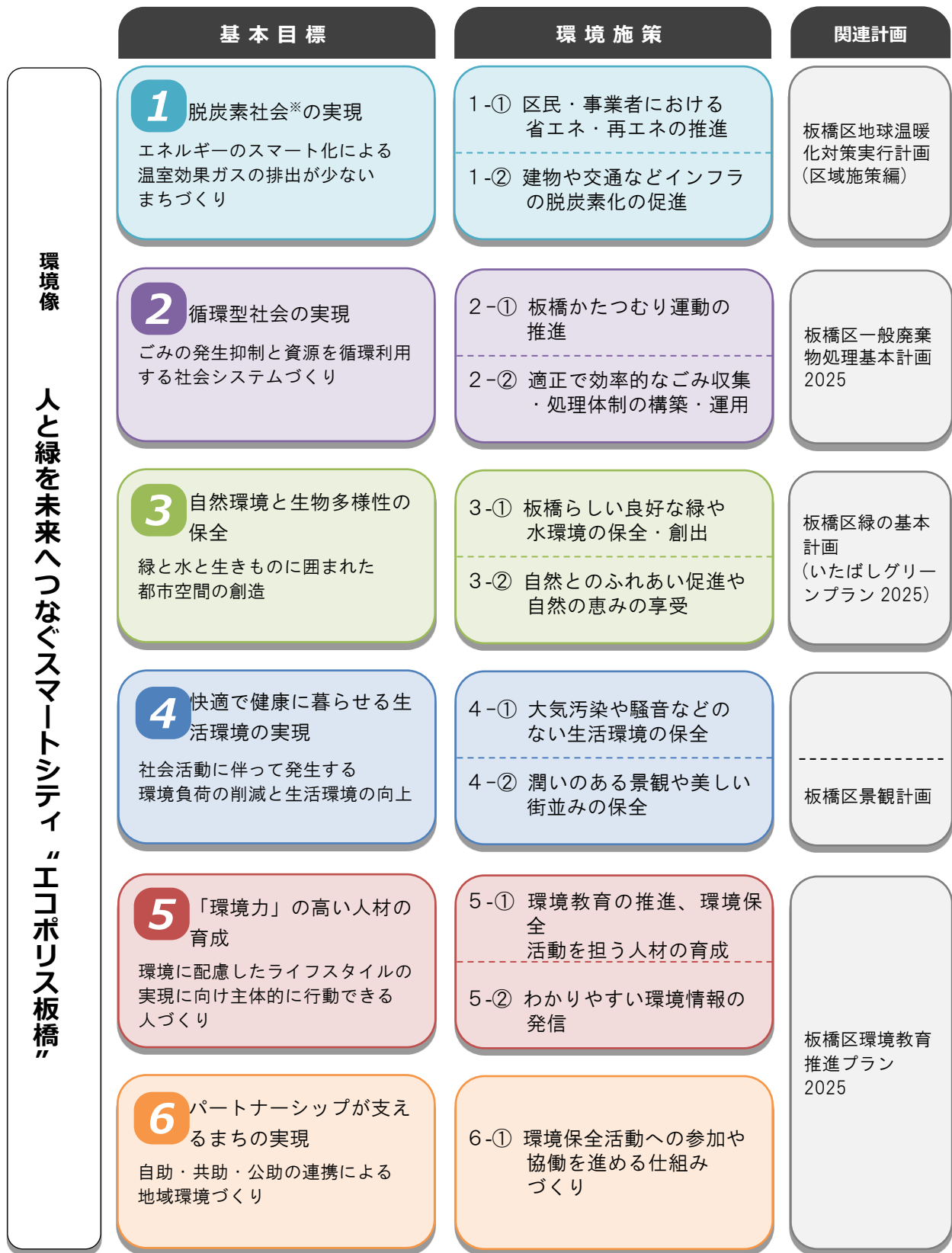


図1-1-2 「板橋区環境基本計画2025」の体系

※ 出典：板橋区環境基本計画2025（2016（平成28）年3月策定）
 ※ 環境基本計画2025策定当時の基本目標1は「低炭素社会の実現」ですが、「板橋区基本計画2025」のアクションプログラムである「いたばしNo1実現プラン2025」の策定により、施策名における「低炭素社会」は「脱炭素社会」へと変更されたことに伴い、本白書では「低炭素」は「脱炭素」と読み替えることとします。

2 計画の推進と進行管理

(1) 進行管理の体制

「板橋区環境基本計画2025」（以下「現行計画」という。）を実効性のあるものとしていくため、計画の進行管理を行います。計画の進行管理は、学識経験者などで構成された区の付属機関である「板橋区資源環境審議会」及び庁内検討組織である「『エコポリス板橋』推進本部」により行われます。また、環境保全活動に関する区民や事業者への普及啓発や区との連絡調整のため、区民や事業者などによる「エコポリス板橋環境行動会議」と連携しながら計画を推進していきます。進行管理の体制と各組織の役割は以下のとおりです（図1-1-3）。

(2) 現行計画の進行管理

計画の進行管理を適切に行うためには、計画の達成度を評価するための指標の設定が重要となります。

現行計画では、主に6つの基本目標に対す

る達成状況を評価する「環境指標」と、環境施策の活動状況を把握する「活動指標」の2種類を設定しています。なお、今回は重点的な取り組みとして「リーディングプロジェクト」進捗評価も行いました。環境指標は、環境保全に資する取り組みを実施した結果、区民などにもたらされた影響を数値化したもので、原則としてアウトカム指標（成果指標）を用いています。一方、活動指標は、取り組みの具体的な活動量（「何をどの程度提供したか」など）を定量的に示したもので、原則としてアウトプット指標を用いています。また、どちらの指標にも、その数値の増減が良い方向に向かっているのか、又は悪い方向に向かっているのかを判断する基準として「めざす方向性」を示しています。（数値の増減で良し悪しを評価することができないものについては「－」で示しています。）現行計画では、これらの指標の数値変化などをもとにして進行管理を行っていきます。

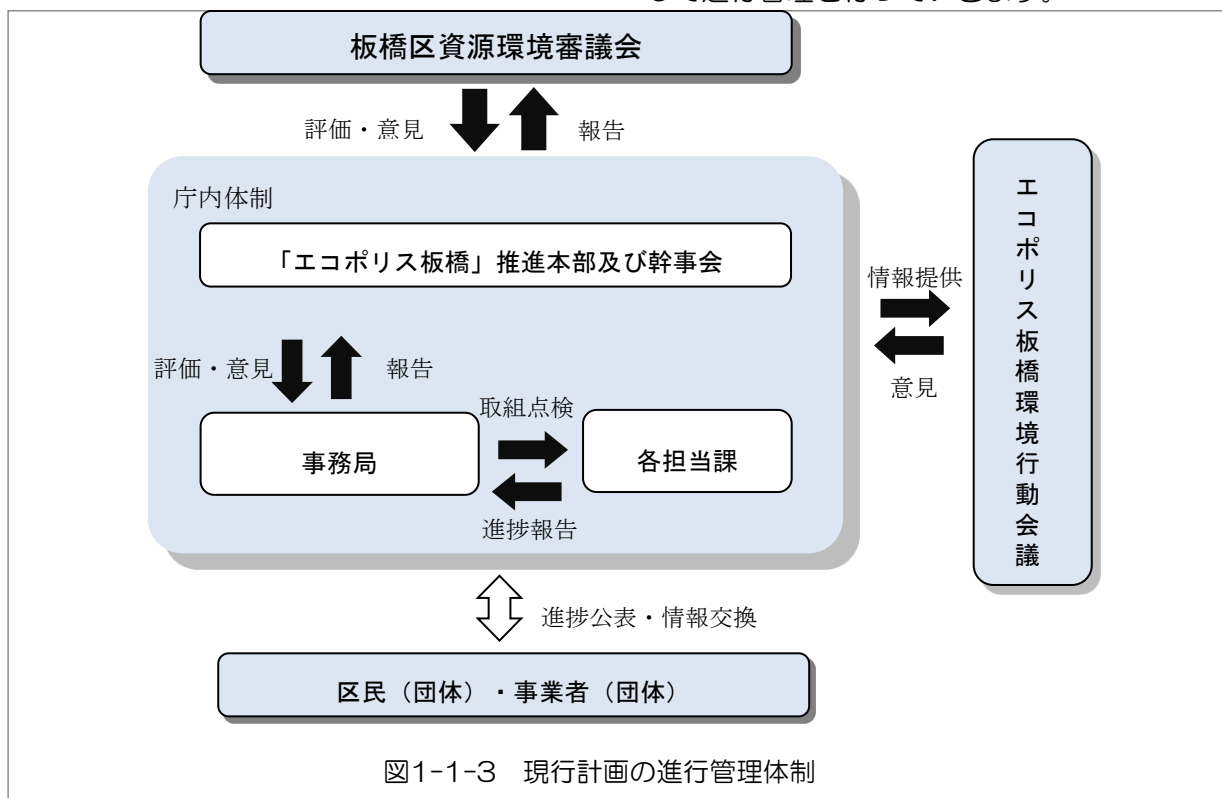


図1-1-3 現行計画の進行管理体制

① 「環境指標」による進捗管理

指標名	基準年値 平成26年度	めざす 方向性	目標値 令和7年度	実績値 令和元年度	(参考) ※6 達成率 達成度	進捗率	進捗度 ※7
基本目標1：脱炭素社会の実現							
区内エネルギー消費量 (熱量換算)	24,307 TJ※1	↘	22,901 TJ※2	21,862TJ※3	173.9% A A	100% 以上	順調
区内温室効果ガス排出量	231.4万t-CO ₂ ※1	↘	220.1万t-CO ₂ ※2	208.9万t-CO ₂ ※3	199.1% A A	100% 以上	順調
基本目標2：循環型社会の実現							
区民一人当たりの一日の ごみ排出量	689 g※4	↘	598 g※5	640 g	53.8% C +	53.8%	順調
リサイクル率	21.5 %※4	↗	28.0 %※5	21.9 %	78.2% B	6.2%	漸進
基本目標3：自然環境と生物多様性の保全							
区全体の植生被覆率	18.3 %	↗	21 %	18.1 %	86.2% B	0%未満	停滞
公園率	5.9 %	↗	6.1 %	5.9 %	96.7% A	0%	停滞
石神井川における生物化学的 酸素要求量 (BOD75%値)	0.7 mg/L	—	1.0 mg/L以下	1.8 mg/L	— C	—	停滞
白子川における生物化学的酸 素要求量 (BOD75%値)	3.8 mg/L	↘	2.0 mg/L以下	3.4 mg/L	22.2% C +	22.2%	漸進
基本目標4：快適で健康に暮らせる生活環境の実現							
微小粒子状物質(PM2.5)の基 準値Bレベル以上の日数	25 日	↘	23 日	1 日	1,200.0% A A	100% 以上	順調
騒音に係る環境基準の達成率	79 %	↗	85 %	81 %	95.3% A	33.3%	漸進
基本目標5：「環境力」の高い人材の育成							
人材育成に関わる環境講座参 加者数	199 人	↗	400 人	451 人	112.8% A A	100% 以上	順調
外部人材を活用した環境学習 実施校(園)の割合	76.1 %	↗	100 %	64.3 %	64.3% C	0%未満	停滞
環境教育プログラム利用校 (園)の割合	74.4 %	↗	100 %	79.5 %	79.5% B	19.9%	漸進
エコ生活(アクション9)の実 施状況	75.0 %	↗	100 %	81.3 %	81.3% B	25.2%	漸進
基本目標6：パートナーシップが支えるまちの実現							
全区民参加型環境保全キャン ペーン参加者数	25,674 人	↗	31,500 人	25,495 人	80.9% B	0%未満	停滞
エコポリスセンター事業への ボランティア等参加者数	990 人	↗	1,300 人	1,064 人	81.8% B	23.9%	漸進
環境登録団体数	27 団体	↗	37 団体	36 団体	97.3% A	90.0%	順調
環境学習講師派遣人数	363 人	↗	500 人	290人	58.0% C	0%未満	停滞

※1：平成24年度 ※2：平成32（令和2）年度（「板橋区地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」の目標年度）

※3：平成29年度（オール東京62市区町村共同事業「特別区の温室効果ガス排出量」より）

※4：「板橋区一般廃棄物処理基本計画2025」の基準年値（平成27年度）

※5：「板橋区一般廃棄物処理基本計画2025」の目標値（令和7年度）

※6：目標値に対する実績値の達成状況。A A（達成率100%超）、A（達成率90%～100%）、B（達成率70%～90%未満）、C +（達成率70%未満でも基準年値を上回る）、C（達成率70%未満で基準年値より悪化）

※7：計画最終年度の目標達成に向けた進捗状況。基準年値と比較して実績値がこのままのペースで推移した場合に、進捗率が100%以上になるものを「順調」、改善はしているものの100%に届かないものを「漸進」、0%以下になるものを「停滞」とした。（平成31年度（令和元年度）については、10か年計画の4年度目（一部を除く）であるため、進捗率が40%以上になるものを「順調」とした。なお、基本目標2については、「板橋区一般廃棄物処理基本計画2025」の計画期間が平成30年度から始まる8年間であるため、進捗率は25%以上になるものを「順調」とした。）

② 「リーディングプロジェクト」による進行管理

指標名	関連する主な環境分野 ※1	基準年値	目標値	実績値	(参考) ※2 達成率 達成度	進捗率	進捗度 ※3
		平成26年度	令和7年度	令和元年度			
自主的に自然や生きものを調査・観察している区民の割合	自然-教育-協働	-	40%	43.3%	108.3% AA	100%以上	順調
水素技術を導入した区民の割合	脱炭-生活-教育	-	7%	1.1%	15.7% C+	15.7%	漸進
「板橋かたつむり運動」を知っている区民の割合	脱炭-循環-教育-協働	12%	20%	24.2%	121.0% AA	100%以上	順調
環境をテーマとした講演会等に参加したことがある区民の割合	教育-協働	6%	33%	19.4%	58.8% C+	49.6%	順調
緑のカーテンに取り組んでいる区民の割合	脱炭-循環-自然-教育-協働	23%	28%	15.7%	56.1% C+	0%未満	停滞

※1：「主な環境分野」における表示は、関連する各環境分野の略称である。「脱炭」＝脱炭素社会、「循環」＝循環型社会、「自然」＝自然環境、「生活」＝生活環境、「教育」＝環境教育、「協働」＝参加・協働

※2：目標値に対する実績値の達成状況。「表1」の※6と同様に達成度を評価した。

※3：環境指標の評価と同様、進捗率が40%以上のものを「順調」、改善はしているものの40%に届かないものを「漸進」、全く改善が見られない又は悪化しているものを「停滞」とした。

○環境指標及び関連するリーディングプロジェクトの進捗状況概要

基本目標1：脱炭素社会の実現

環境指標の「区内エネルギー消費量」及び「区内温室効果ガス排出量」は、共に「順調」に推移した。東日本大震災以降における節電の取り組みの定着等により、エネルギー消費量の減少傾向が続いているほか、再生可能エネルギーによる発電量の増加等により、電力の二酸化炭素排出係数が緩やかに低下し、温室効果ガス排出量の減少につながった。また、関連するリーディングプロジェクトの指標である「水素技術を導入した区民の割合」はやや伸び率が低調であるため、策定中である「（仮称）板橋区地球温暖化対策実行計画（区域施策編）2025」の中でより一層導入の促進を図っていく。同指標の「緑のカーテンに取り組んでいる区民の割合」も基準年値を下回っているため、SNSの活用等により、区民の身近な取り組みの一つとしてさらに魅力の発信に努めていく。

（関連ページ：P12）

基本目標2：循環型社会の実現

環境指標の「区民一人当たり一日のごみ排出量」は減少傾向にあり「順調」に推移していると考えられる。一方、「リサイクル率」は基準年値を上回っているものの、その上げ

幅は僅かであり「漸進」となった。これは、分母となるごみ排出量の減少によりリサイクルされる割合を高める要因はあるものの、新聞・書籍の電子化によって分子となる古紙等の資源回収量も減少しているため、伸び率が押し下げられているのではないかと考えられる。板橋区一般廃棄物処理基本計画2025の重点的取り組みである食品ロス対策や容器包装プラスチック類等のリサイクルの拡充、古紙類の分別回収の徹底など、ごみの発生抑制と資源化量を増やす取り組みを同時に行っていくことにより向上を図っていく。また、関連するリーディングプロジェクトの指標である『「板橋かたつむり運動」を知っている区民の割合』が目標値以上であり、取り組みが浸透してきていることを示唆している。

（関連ページ：P28）

基本目標3：自然環境と生物多様性の保全

環境指標の「公園率」は、前年度から新設された公園がなかったため、数値に変化はなかったが、2020（令和2）年5月に農業園（赤塚植物園の増設）が開園し、その後も本計画期間内に（仮称）板橋区史跡公園等の開園が予定されており、着実に事業を推進し公園面積を確保していく。

「区全体の植生被覆率」は、前回調査時（2014（平成26）年度）に比べ低下したが、これは建築工事の増加に伴う減少と考えられるが、今後も既存の緑を保全していくとともに、より一層の緑化助成制度の普及啓発を行っていく。「生物化学的酸素要求量（BOD75%値）」については、石神井川、白子川ともに前年度より数値が低下し、採水前に降雨が多かった影響で数値が高くなったとも考えられるため、今後は極力天候が安定した日に採水していく。また、関連するリーディングプロジェクトの指標である「自主的に自然や生きものを調査・観察している区民の割合」については「順調」に推移しており、身近な自然に対する区民の関心の高さがうかがえる。

（関連ページ：P40）

基本目標4：快適で健康に暮らせる生活環境の実現

環境指標の「微小粒子状物質(PM2.5)の基準値Bレベル以上の日数」は、2014（平成26）年度以降、年間を通じた測定結果が得られ、基準値Bレベル以上の日数は減少傾向にあり2019（令和元）年度は大幅減の1日のみとなった。理由としては、工場などのばい煙発生施設の規制や自動車排気ガス規制などが考えられる。また、「騒音に係る環境基準の達成率」の進捗率は目標に若干届かなかったが、近年の自動車性能の向上及び低騒音型の路面舗装の普及などが進み改善が見受けられる。

（関連ページ：P53）

基本目標5：「環境力」の高い人材の育成

環境指標の「人材育成に関わる環境講座参

加者数」は「順調」に推移した。一方、それ以外の指標については「漸進」又は「停滞」の評価となった。「人材育成に関わる環境講座参加者数」については、新たにあいキッズ事業者に対して学習機会の提供を行ったため、前年度に比べ大幅に増加した。さらに2020（令和2）年度からは、児童館職員を対象とした研修を実施した。また、「外部人材を活用した環境学習実施校（園）の割合」については、依然として基準年値を下回っており、保育園・幼稚園におけるエコポリスセンターの出前授業の活用率が低いことが原因と考えられるため、周知方法や内容の見直しを図る。

（関連ページ：P76）

基本目標6：パートナーシップが支えるまちの実現

環境指標の「環境登録団体数」は「順調」に推移した。一方、それ以外の指標については「漸進」又は「停滞」の評価となった。

「環境登録団体」はエコポリスセンターで3団体、ボランティアセンターで6団体、登録団体が増加した。「環境学習講師派遣人数」については、依然として基準年値を下回っているものの、前年度から派遣人数、派遣件数ともに大幅に増加し、多くの活動主体に講師を提供できた。今後も指導者養成講座を実施し、エコポリスセンターの出前講座を担える人材の育成に努めていく。また、関連するリーディングプロジェクトの指標である「環境をテーマとした講演会等に参加したことがある区民の割合」についても「順調」に推移しており、今後も受講をきっかけに自主的に活動できる人材を育成できるように区民の学習機会を増やしていく。

（関連ページ：P85）

③活動指標による進行管理

2019（令和元）年度における活動指標の実績と進捗状況は以下のとおりである。なお、「進捗度」については、基準年値に対して実績値が5%以上増加（「めざす方向性」が下

向き矢印の場合は減少）したものを「進展」、5%以上減少（同増加）したものを「後退」、増減が5%未満のものを「横ばい」とした。

指標名	基準年値 平成26年度	めざす 方向性	実績値 平成30年度	実績値 令和元年度	進捗度	関連する ページ
▶環境施策1-①：区民・事業者における省エネ・再エネの推進						
区内の住宅用太陽光発電システム導入発電容量	4,611 kW	↗	5,796kW	6,043kW	進展	15
区公共施設における緑のカーテン実施施設数	180 施設	↗	161 施設	167 施設	後退	14
環境マネジメントシステム新規構築事業所数	14 事業所	↗	7 事業所	4 事業所	後退	19
新エネルギー・省エネルギー機器設置補助件数	347 件	↗	305 件	319 件	後退	15
▶環境施策1-②：建物や交通などインフラの低炭素化の促進						
「板橋区建築物等における省エネルギー・環境配慮に関する指針」に基づく省エネ建築物受付件数	57 件	↗	51 件	48 件	後退	22
街灯の更新	— 基	↗	7,898 基	2,768 基	—	23
区役所で使用している自動車の低公害車率	74 %	↗	73 %	73 %	横ばい	24
自転車道整備延長距離（累計）	4,670m	↗	4,670m	4,670m	横ばい	24
▶環境施策2-①：板橋かたつむり運動の推進						
ごみ減量に関する出前講座の実施回数	43 回	↗	44 回	43 回	横ばい	30
資源回収品目数	11 品目	↗	11 品目	11 品目	横ばい	35
リサイクル推進員研修会参加者数	433 人	↗	302 人	372 人	後退	30
小型家電の資源売却量*1	544,570 kg	↗	502,856 kg	541,152 kg	横ばい	35
いたばしエコ・ショップ（ゴールド）認定数	— 事業所	↗	—*2	—*2	—	—
▶環境施策2-②：適正で効率的なごみ収集・処理体制の構築・運用						
家庭ごみの排出量（可燃・不燃・粗大ごみ）	110,742 t	↘	107,402 t	108,331 t	横ばい	34
事業系ごみの排出量（可燃持ち込みごみ）	29,520 t	↘	31,537 t	30,911 t	後退	34
資源の回収量	13,869 t	—	13,101 t	13,238 t	—	35
高齢者・障がい者などに対する戸別収集件数	783 件	↗	834 件	853 件	進展	34
集団回収登録団体数	883 団体	↗	906 団体	908 団体	横ばい	37
▶環境施策3-①：板橋らしい良好な緑や水環境の保全・創出						
緑化指導に基づく緑化箇所数	90 件	↗	92 件	62 件	後退	43
緑化指導に基づく緑化面積	59,617 m ²	↗	16,544 m ²	11,010 m ²	後退	43
地域がつくる公園制度導入公園数	27 公園	↗	28 公園	28 公園	横ばい	47
花づくり活動登録グループ数	83グループ	↗	82グループ	82 グループ	横ばい	47
保存樹木指定本数	1,842 本	↗	1,798 本	1,781 本	横ばい	42
雨水流出抑制量	4,119 m ³	↗	4,489 m ³ *3	3,959 m ³ *4	横ばい	46

*1：小型家電の資源売却については、金属価格の下落による逆有償（排出側が処理側に代金を支払うこと）が発生し、売却が困難な状態となっているため、基準年値・実績値ともに、「資源回収量」を掲載した。

*2：平成30年3月末にて事業終了 ※3：平成29年度実績値 ※4：平成30年度実績値

指標名	基準年値 平成26年度	めざす 方向性	実績値 平成30年度	実績値 令和元年度	進捗度	関連する ページ
基本目標3						
▶環境施策3-②：自然とのふれあい促進や自然の恵みの享受						
グリーンフェスタ参加者数	8,073 人	↗	4,780 人	5,109 人	後退	50
緑のガイドツアー参加者数	102 人	↗	117 人	106 人	横ばい	50
熱帯環境植物館来館者数	103,925 人	↗	122,021 人	114,666 人	進展	52
エコポリスセンター「かんきょう観察員」登録者数	57 人	↗	53人	59 人	横ばい	52
区民農園応募者数	3,144 世帯	↗	2,766 世帯	2,498 世帯	後退	51
基本目標4						
▶環境施策4-①：大気汚染や騒音などのない生活環境の保全						
公害苦情件数	251 件	↘	240 件	233 件	進展	71
公害相談件数	2,182 件	—	2,808 件	2,762 件	—	71
公害関係法令に基づく改善指導件数	201 件	—	134 件	153 件	—	71
「板橋区大気情報公開システム」アクセス件数	458,533 件	↗	1,011,394 件	237,311 件	後退	57
環境調査に関する情報のツイッター発信数	25 件	↗	116 件	155 件	進展	72
▶環境施策4-②：潤いのある景観や美しい街並みの保全						
景観形成重点地区指定数	4 地区	↗	4 地区	4 地区	横ばい	74
「板橋区クリーン作戦」参加者数	18,721 人	—	20,436 人	19,583 人	—	75
「板橋区クリーン作戦」におけるごみ回収量	6,600 袋	—	7,231 袋	6,449 袋	—	75
路上禁煙地区(8地区)内の定点におけるたばこのポイ捨て月平均本数	1,300 本/月 ^{※5}	↘	995 本/月	899 本/月	進展	87
基本目標5						
▶環境施策5-①：環境教育の推進、環境保全活動を担う人材の育成						
環境講座・教室開催回数	677 回	↗	597 回	579 回	後退	78
環境講座参加者数（人材育成に関わる講座を除く）	22,898 人	↗	22,751 人	20,316人	後退	78
環境学習講師派遣人数	363 人	↗	222 人	290 人	後退	78
環境学習施設の入館者数	270,195 人	↗	302,074 人	315,947 人	進展	78
環境講座受講前後の知識・考え方の変化	63 % ^{※6}	↗	67.4 %	77.1 %	進展	78
▶環境施策5-②：わかりやすい環境情報の発信						
区から発信する環境情報の更新回数	356 件	↗	1,493 件	965 件	進展	82
環境イベント等開催回数	244 回	↗	222 回	199 回	後退	83
環境イベント等参加者数	96,949 人	↗	44,178 人	44,877 人	後退	83
基本目標6						
▶環境施策6-①：環境保全活動への参加や協働を進める仕組みづくり						
ボランティアなどの協力を受入れたエコポリスセンター事業数	183 件	↗	165 件	187 件	横ばい	89
自主講座支援回数	2 回	↗	1 回	2 回	横ばい	89
喫煙マナーアップ推進員人数	157 人	↗	87 人	93 人	後退	87
集団回収登録団体数【再掲】	883 団体	↗	906 団体	908 団体	横ばい	37
地域がつくる公園制度導入公園数【再掲】	27 公園	↗	28 公園	28 公園	横ばい	47
花づくり活動登録グループ数【再掲】	83グループ	↗	82グループ	82 グループ	横ばい	47

※5：平成27年4月～平成28年1月までの10か月間の平均値 ※6：平成28年度実績値

○活動指標の主な成果

基本目標1：脱炭素社会の実現

住宅等における「新エネルギー・省エネルギー機器設置補助」を推進し、「区内住宅用太陽光発電システム導入発電量」については順調に増加し、CO₂の年間削減量で350tを上回る効果が得られた。また「街灯の更新（LED灯の導入）」については2,768基を更新した。

基本目標2：循環型社会の実現

板橋区の人口は近年増加傾向にあるものの、「家庭ごみの排出量（可燃・不燃・粗大ごみ）」は基準年値以下で推移している。また、「高齢者・障がい者などに対する戸別収集件数」についても前年度より収集件数が増加し順調に推移している。

基本目標3：自然環境と生物多様性の保全

「熱帯環境植物館来館者数」については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策に伴い、臨時休館や事業を縮小したため入館者数は昨年度よりも減少したが、基準年値の来館者数を上回り順調に推移している。

基本目標4：快適で健康に暮らせる生活環境の実現

区の大気、生き物の情報、緑のカーテンの取り組み状況等、生活環境に関する幅広い情報を積極的に発信し「環境調査に関する情報のツイッター発信数」は増加傾向である。また「路上禁煙地区（8地区）内の定点におけるたばこのポイ捨て月平均本数」については、受動喫煙防止の意識の高まりや、喫煙率そのものが低下していると考えられ減少傾向である。

基本目標5：「環境力」の高い人材の育成

「環境講座受講前後の知識・考え方の変化」した受講者の割合も着実に上昇しており、受講者の環境に対する意識向上ができたものと考えられる。また「区から発信する環境情報の更新回数」については、SNS（Twitterなど）を積極的に活用したため更新回数が増加した。今後も、リアルタイムで情報を更新することにより、より新しい情報を提供するよう努めていく。なお、「環境講座・教室開催回数」や「環境イベント等開催回数」については、新型コロナウイルス感染症や台風等の影響により、中止としたことが回数の減少につながった。今後はリモートでのイベントの開催、ホームページやSNSを活用した情報提供を積極的に行い、コロナ禍でも環境教育を推進できるよう事業展開を図る。

基本目標6：「パートナーシップ」が支えるまちの実現

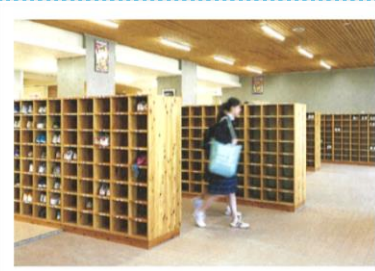
「ボランティアなどの協力を受け入れたエコポリスセンター事業数」については、達成率は基準に満たなかったが、前年度より増加した。また、件数だけでなく参加人数も増加していることから、ボランティアの活動の場を提供できたと考えられる。今後も「板橋エコみらい塾」等の指導者養成講座でボランティアの人材育成・確保を図っていく。

板橋区の環境とSDGs

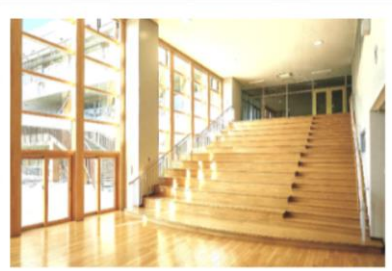
2015（平成27）年9月に国連本部で開催された「国連持続可能な開発サミット」で「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。ここで掲げられた2030（令和12）年を年限とする国際目標が持続可能な開発目標（SDGs）（※P98）です。持続可能な世界

を実現するための17のゴールと、それらを達成するための具体的な169のターゲットから構成されています。

板橋区で取り組む環境関連事業においても、SDGsの目標達成に寄与しており、その一例をご紹介します。



日光市産の木材を使用した
下駄箱（中台中学校）



日光市産の木材を使用した大階段
（板橋第一小学校）



板橋区と日光市で交わされた「みどりと文化の交流協定」に基づき、区立学校施設整備に係る木材資材に日光市産のスギやヒノキなどを使用することで、地域の「経済」に貢献するとともに、木の循環利用や環境問題などを学習するための「環境」教育の場となり、さらにCO₂排出削減にも大きく寄与しています。（関連P43「板橋区の森」）



板橋区立熱帯環境植物館



区立熱帯環境植物館は清掃工場の余熱を利用した省エネルギー型施設で、東南アジアの熱帯雨林や環境問題に関する普及啓発を図っており、マレーシア・ペナン州立植物園との交流も重ねています。また、区立中学生のマレーシア派遣事業により国際「社会」との人的交流も行われ、マレーシアとの交流を通して、「社会」「環境」「教育」の各分野が相互に連携しながら、SDGsの目標達成に向けて相乗効果を生み出していると言えます。

（関連P51「熱帯環境植物館」）



緑のカーテンでヘチマを収穫する園児



集会所の緑のカーテン



板橋区で全国に先駆けて始まった「緑のカーテン」は、小中学校をはじめとして「環境」教育の「生きた教材」となり、集会所で開かれるゴーヤーパーティーは、地域の活性化につながる「社会」活動となっています。（関連P14「緑のカーテン」）



板橋こども動物園の草屋根

2020（令和2）年12月にリニューアルオープンした「板橋こども動物園（東板橋公園内）」では、動物とふれあうことで「生命の尊さ」や「ヒーリング効果」を大切にし、子ども、障がい者、高齢者など様々な方の健康と福祉に貢献します。さらに馬糞の堆肥化により循環型社会に寄与し、草屋根や壁面緑化により環境負荷の低減および気候変動への影響緩和をめざします。

（関連P48「板橋こども動物園」）



2020（令和2）年5月に「赤塚植物園」に増設された「農業園」は、「観て・育てて・収穫する」体験型農業園です。主に児童・園児たちが農業体験や自然体験をすることで農業教育・環境教育を行い、さらに収穫した野菜をつかって本園で調理することで農作物への理解を深め、食育の推進につなげています。

（関連P48「赤塚植物園」）



赤塚植物園・農業園



板橋区環境基本計画2025でめざす6つの基本目標を達成し、持続可能なまちを実現するためには、これらのうちのどれか一つを追求するのではなく、全てをバランス良く実施していく必要があります。

本書第2部以降で紹介する取り組みは、それぞれが単に一つの「環境」問題を克服するためだけのものではなく、「経済」「教育」「社会」などの幅広い分野とも密接に関わり、相乗効果を生み出す可能性を含んでいます。

基本目標実現に向けて、“環境問題を克服する”ことが、同時に“地域の活性化”“環境教育の充実”“協働による社会活動推進”などにもつながっていくことを各主体が認識し、相互に連携しながら取り組みを推進することが重要となります。

このように、板橋区環境基本計画2025における基本目標実現に向けたアプローチは、SDGsとの親和性が高く、SDGsの目標達成に寄与していると言えます。